

令和6年度 小平市立小平第一小学校 学校評価報告書

学校教育目標 人権尊重の精神を基調に、生涯学び続ける国際性豊かな日本人の育成を目指して、以下の教育目標の具現化に努める。
 ○考える子 ○やさしい子 ○やりぬく子 ○元気な子

目指す学校像(ビジョン)
 【目指す学校像】 学校にかかわるすべての人にとって「楽しい」第一小学校
 【目指す児童・生徒像】 重点目標 やさしい子 自他の生命を尊重し共感し、人が喜ぶ姿を見て喜べる子
 【目指す教師像】 子どものもつ良さを十二分に発揮させる教育活動を展開する教師

前年度までの学校経営上の成果と課題
 (成果)○創立150周年を地域との協力を深めながらともに祝い、学校に対する愛着を高めることができた。 ○児童が主体的に学ぶことができる授業を意識することができた。
 (課題)○不登校・登校しづりに対する組織的な対応に取り組む。 ○ボランティアとの効果的、継続的な連携を進めていく。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標		
学力向上	「全員を到達させる目標」をより明確にするとともに、総合的な学習の時間を中心に、各教科の学習の中でも自分で課題を設定して取り組む活動を取り入れ、学習意欲につなげていく。	4	3	教科ごとに「必達目標」を設定し、基礎学力を保障する取組と落ち着いた学習環境を保障する学習規律を徹底している。総合的な学習の時間を中心に、各教科の学習の中でも自分で課題を設定して取り組む活動を取り入れ、学習意欲もたせる授業づくりをさらに推進する。	4	3	「全員を到達させる目標」をより明確にしたことで教員が意欲的に取り組んでいる様子を感じられる。さらに一人一人が学びの手伝えを感じられる授業づくりを今後も進めてほしい。学習者用端末の日常化をさらに進めるとともに子どもたちの紙に「書く」という取組も並行して充実させてほしい。	教科ごとに「必達目標」を設定し、教員間で目標設定や進捗状況を共有し確実に実施していく。総合的な学習の時間を中心に、各教科の学習の中でも自分で課題を設定して取り組む活動を取り入れ、学習意欲もたせる授業づくりをさらに推進する。
	朝学習や補習日における学習用端末を活用したドリル学習を継続的に実施し、基礎学力を保障していく。	4	3	朝学習や補習日に一人一台の学習用端末を活用したドリル学習を継続的に実施し、基礎学力の向上に努めている。さらに教師用デジタル教科書を活用し、わかりやすい授業づくりを推進するとともに、学習者用端末の日常的活用(文房具化)を推進する。	3	3		朝学習や補習日に学習用端末を活用したドリル学習を継続的に実施し、基礎学力の向上に努めていく。また、学習者用端末の日常化(文房具化)をより一層進めるとともに、手書きでの学習が適切な場面を見極めて指導を行っていく。
健全育成	2～6年でI-checkを実施し、積極的な生活指導の推進を図る。組織的な不登校対応を徹底していくとともに、校内に不登校を支援するための教室を設置し、環境整備を図る。	4	3	2～6年でI-checkを実施し、分析結果を共有することで生活指導の推進を図っている。今後も不登校の未然防止、早期発見、早期対応を図るために組織的な対応を徹底していく。またボランティアを活用した不登校を支援するための教室を運営を推進していく。	4	2	「ここにこルーム」の活用で不登校が解消された事例も確認している。「ここにこルーム」の人的支援にも協力していきたい。教員が健全育成(いじめ防止等)に向けて使命感をもって取り組んでいる様子を感じられる。しかし、児童からの評価が低下しているようである。コミュニティ・スクールとして保護者・地域との連携を強化しながらさらに推進してほしい。	今後もI-checkを実施し分析結果を共有たり一ノスタンダードの徹底を図ることにより、積極的な生活指導を推進する。また、「ここにこルーム」の効果的活用を工夫していくとともに、ボランティアを活用した人的支援の充実も図っていく。各専門機関との連携もさらに推進していく。
	「小平第一小学校いじめ対応基本方針」に基づき、組織的な対応を継続していくとともに、毎週いじめ対策委員会等で各学年の状況を共有し、一人一人の児童を全教職員で見守る体制を徹底する。	4	2	「小平第一小学校いじめ対応基本方針」に基づき、毎週の管理職・主幹教諭・生活指導主任・養護教諭で、状況を確認している。定期的にいじめ対策委員会を開催し、早期発見、対応を徹底していく。今後も、人間関係づくりをねらいにした教育活動を充実させるとともに、家庭・地域、関連機関と連携し、児童の健全育成を図っていく。	4	2		「小平第一小学校いじめ対応基本方針」を改訂し、全教職員の共通理解のもとで組織的な対応を継続していく。定期的にいじめ対策委員会を開催し、早期発見、対応を徹底していく。今後も、道徳や学級活動を中心に人間関係づくりをねらいにした教育活動を充実させるとともに、家庭・地域、関連機関と連携し、児童の健全育成を図っていく。
地域連携	協議会委員と教員が目指す学校、育てたい児童の姿を共有するため、学期に一度、熟議を行う。	4	3	学期に1回を目安に学校経営協議会に教員全員が参加し、育てたい児童の姿について熟議する時間をとることができた。学校・保護者・地域の連携力をさらに高めるために学校からの情報発信を継続していく。	4	4	全教員が年間3回程度学校経営協議会に参加して意見交換できたことほどもよかった。今後は、コミュニティ・スクールとして、より一層の地域活用(出前授業、学童農園、放課後子ども教室のボランティア活用等)を進めてもらえるよう努力していく。また、取組についても発信してほしい。	全教員が年間3回程度学校経営協議会に参加し熟議や情報交換を実施し、協議会委員との連携を図っていく。さらに学校経営協議会の機能を生かし、学力向上や安心安全づくりを図るプロジェクトを推進していく。
	コミュニティ・スクールとして、地域の教育力を活用するとともに、学び合いを重視した「総合的な学習の時間」の中で、児童の理解と体験が往還する探究的学習を充実させていく。	4	3	「生活科」「総合的な学習の時間」の中で地域を教材とした単元を作成し、地域力を活用した授業を推進することができた。今後も、学校支援ボランティア組織を充実させ、地域の教育力を活用する体制を推進していく。	4	2		コミュニティ・スクールとして、地域の教育力を最大限に活用するとともに、地域の自然や文化財、学童農園を積極的に活用し、地域とともに授業を企画し実施する。放課後子供教室や青少年対との連携を積極的に行い、学校をイベントの場として提供していく。
働き方改革	業務量の制限と時間管理によって、放課後の時間にゆとりをもたせ、学年で学習について検討する時間を作る。	2	2	生活時程の工夫や校務システムの活用で教員が児童に向き合える時間の確保に努めている。また、時間講師の確保やスクールサポートスタッフ、エデュケーション、学校支援ボランティア、学生ボランティアの積極的な活用により、個人の業務量のより一層の削減を図っていく。	3	2	職務の効率化を図って児童や保護者地域を触れ合う時間の確保に工夫して取り組もうという意欲を感じられた。さらなる働き方改革を推進してほしい。教員が元気で児童に関わってくださるよう、家庭・地域でも児童をしっかり見て対応していきたい。	生活時程の工夫、行事・会議等の精選、校務システムの活用で教員が児童に向き合える時間の確保に努めていく。また時間講師やスクールサポートスタッフ、エデュケーションアシスタント、ボランティアの積極的な活用により、個人の業務量のより一層の削減を図っていく。
	取り組みのねらいを明確にして計画作りを進め、職務の効率化を図り、職員が、児童とふれあう時間や保護者・地域との連携に向けて互いに相談し合う時間を確保していく。	3	2	行事の教育効果を問いつながら、開催方法の見直しや精選を図っている。運動会の午前中実施や、土曜授業日と保護者会の同日開催などの実施により持続可能な教育活動を推進している。	4	2		さらなる職務の効率化を図り、職員が、児童とふれあう時間や保護者・地域との連携に向けて互いに相談し合う時間を確保していく。また、各行事のねらいを明確にして計画作りを進め、短い時間で充実した内容となる持続可能な教育活動を推進していく。
人材育成	幼小の連携(白梅幼稚園との共同研究)を推進し、新たな教科再編を提言するとともに、全員授業を原則とした授業研究を実施し、学年単位での授業づくりを徹底していく。	3	3	年間7回に設定した研究授業日を設定し、「子どもの対話力を育む指導法の工夫～発見・探求・交流を熱中して行う児童の育成」をテーマに校内研究を進めている。さらに児童の確かな学力の定着を図る評価指標としての「ルーブリック」を活用した学習評価を研究を深めていく必要がある。	2	2	研究の成果をもとに、1、2年生の生活科の授業改善が図られている様子を感じられる。3～4年生の総合的な学習の時間の授業改善にもつなげてほしい。どの教室でも、学習用端末を活用して児童が楽しく学びに向かい、ともに学び合っていることが感じられる。文部科学省指定の研究開発校としての取組について、情報発信をより一層充実させてほしい。	今年度の成果を生かし、文部科学省指定研究開発校として新たな教科再編(1・2年「生活ひろば」)を提言していく。また、「生活ひろば」と3～6年生の「総合的な学習の時間」との接続も意識した校内研究を推進していく。
	一人一台の学習用端末を活用した指導改善や目的を明確にした活用を推進していく。	4	3	「深い学びにつながる一人一台端末を活用した指導法の工夫」をテーマに、全教員で学習者用端末の推進を図るとともに研修夕会を効果的に活用し、全教員の学び合いによる学習用端末の活用スキル向上を図っていく。	3	3		教員間で積極的に授業を見合うことができる体制を整備するとともに、教員間のコミュニケーションを大切にして日常的なOJTを推進していく。また、研修夕会を効果的に活用し、具体的な活用事例について情報交換する機会を充実させていく。